

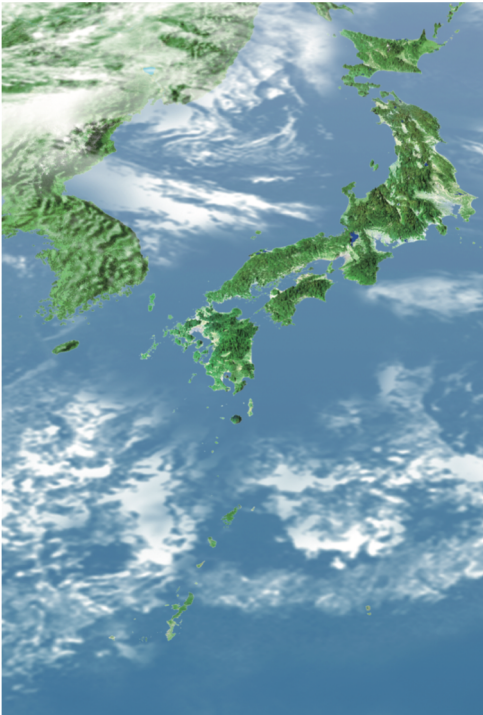
2018～2022年度 新学術領域研究 (研究領域提案型)

記者会見 2018年 9月 10日 (日) 16:00～17:00

**ゲノム配列を核とした
ヤポネシア人の起源と成立の解明**
(領域略称名：ヤポネシアゲノム)

<領域代表> 齋藤 成也
国立遺伝学研究所 教授
総合研究大学院大学・生命科学研究所・遺伝学専攻 教授 (兼任)
東京大学・大学院理学系研究科・生物科学専攻 教授 (兼任)
日本学術会議 連携会員 (兼任)

ヤポネシアとは？
日本 島々
「日本列島」を意味する
島尾敏雄 (1917-1986)が1960年代に提唱



人類進化の研究は
解像度「数万倍」**革命の**
まっただなか

常染色体
数百万塩基

Y染色体

ミトコンドリアDNA・Y染色体
(百塩基程度)



「ゲノム配列を核としたヤポネシア人の起源と成立の解明」

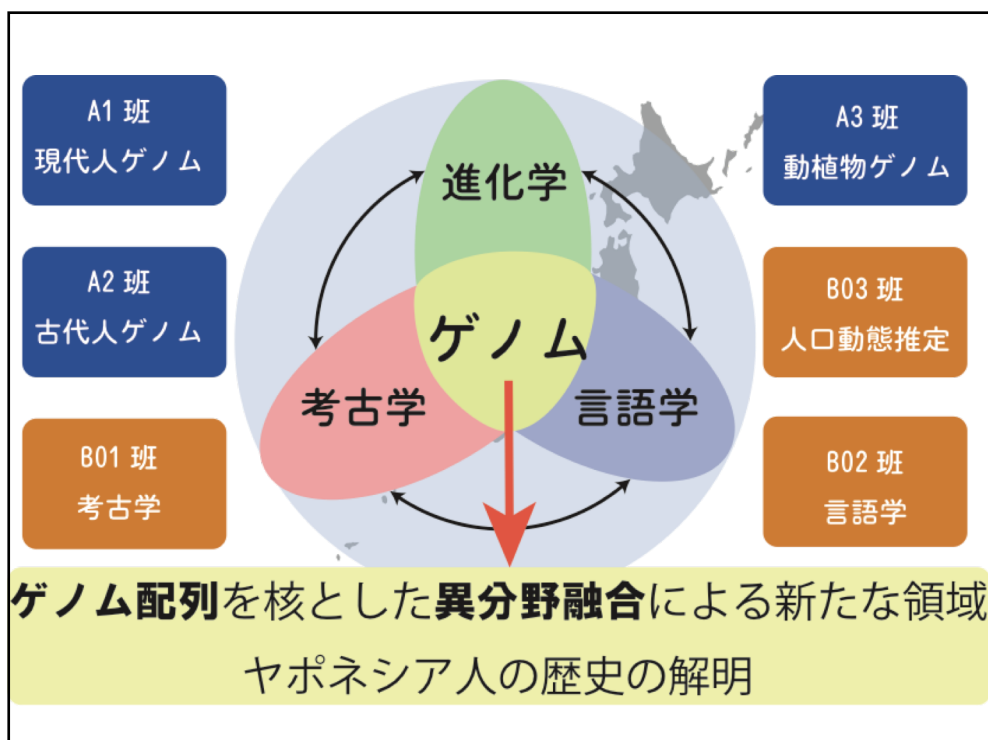
がもたらすブレークスルー

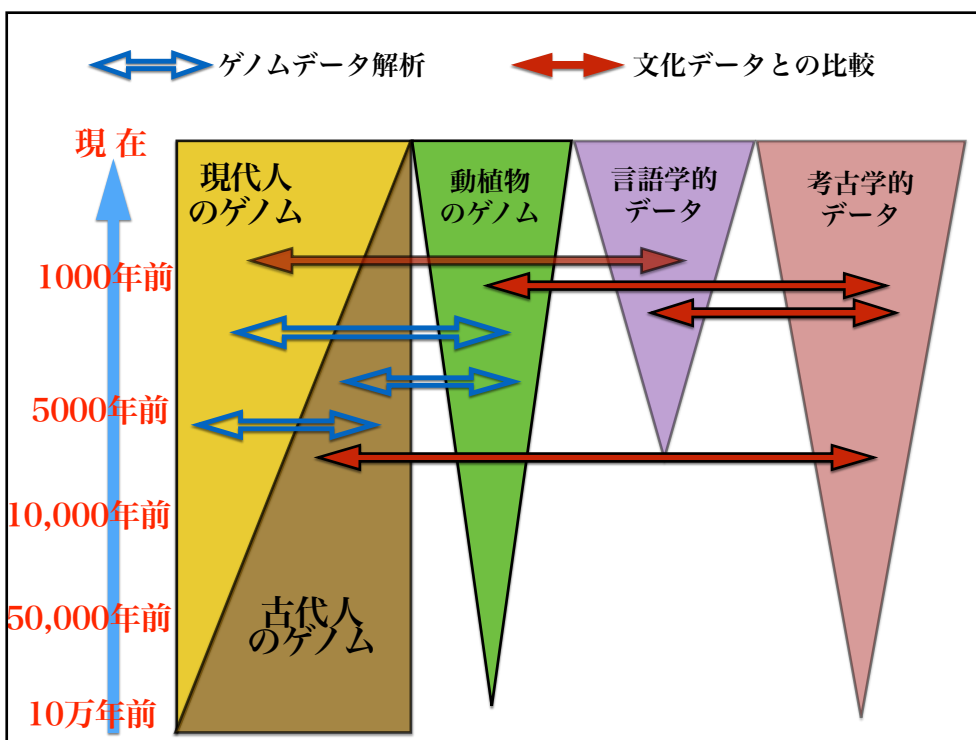
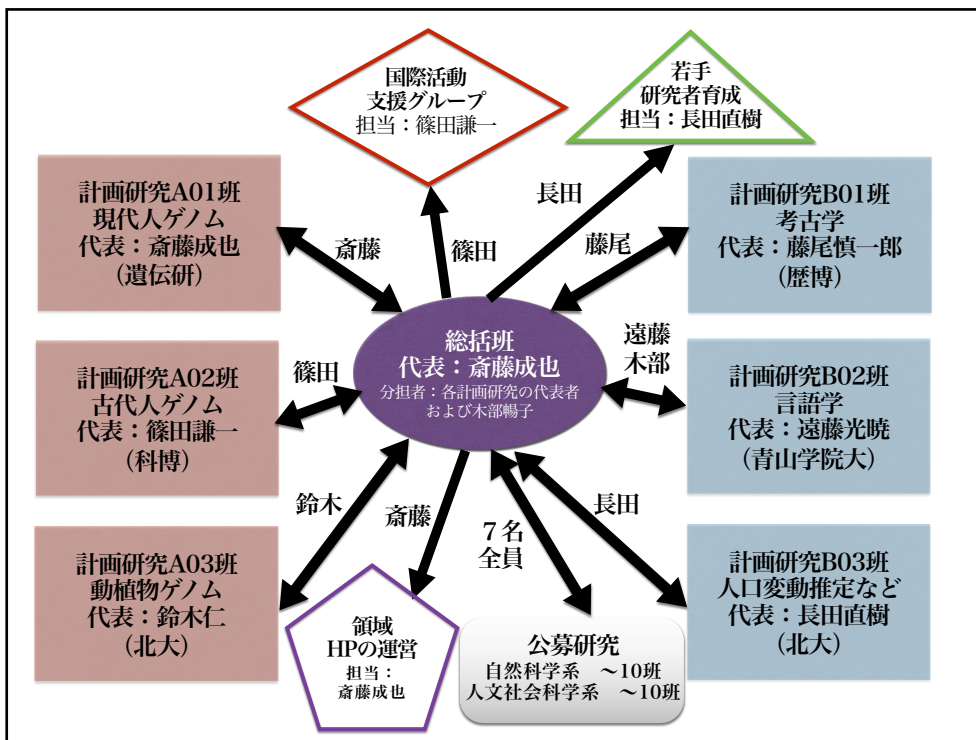
- ★**現代人・古代人・動植物**の進化研究：これまでの数万倍で、しかもヤポネシアを中心とした多地域における核ゲノムデータにより、量から質への**革命**がもたらされつつある
- ★**考古学**：年単位まで精密化された年代推定法により、ヤポネシアとその周辺における時間解像能に**革命**がもたらされた
- ★**言語学**：空間的・時間的に広範囲の調査により、ヤポネシア人とその周辺のデータ解析に**革命**がもたらされつつある

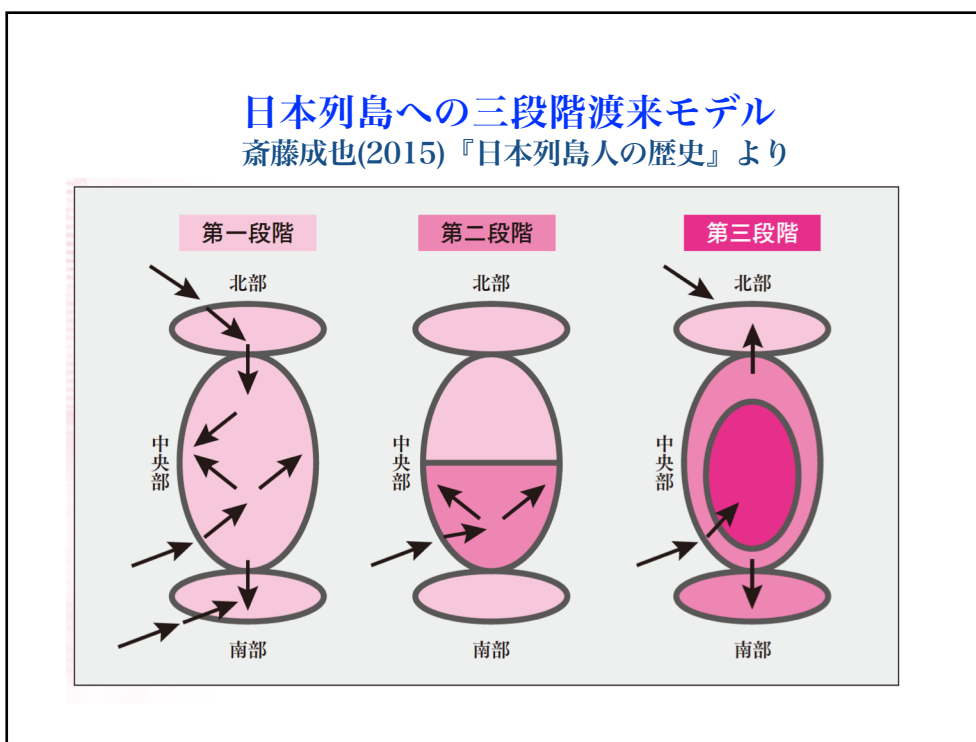
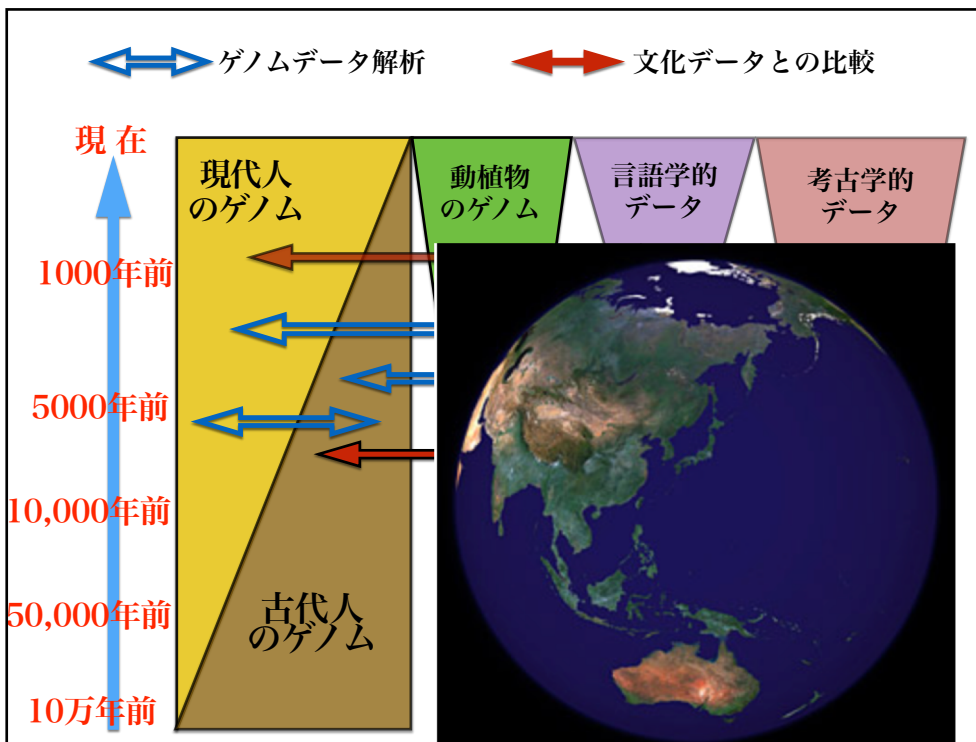
ヤポネシア人のゲノムをめぐる**文理融合研究**により

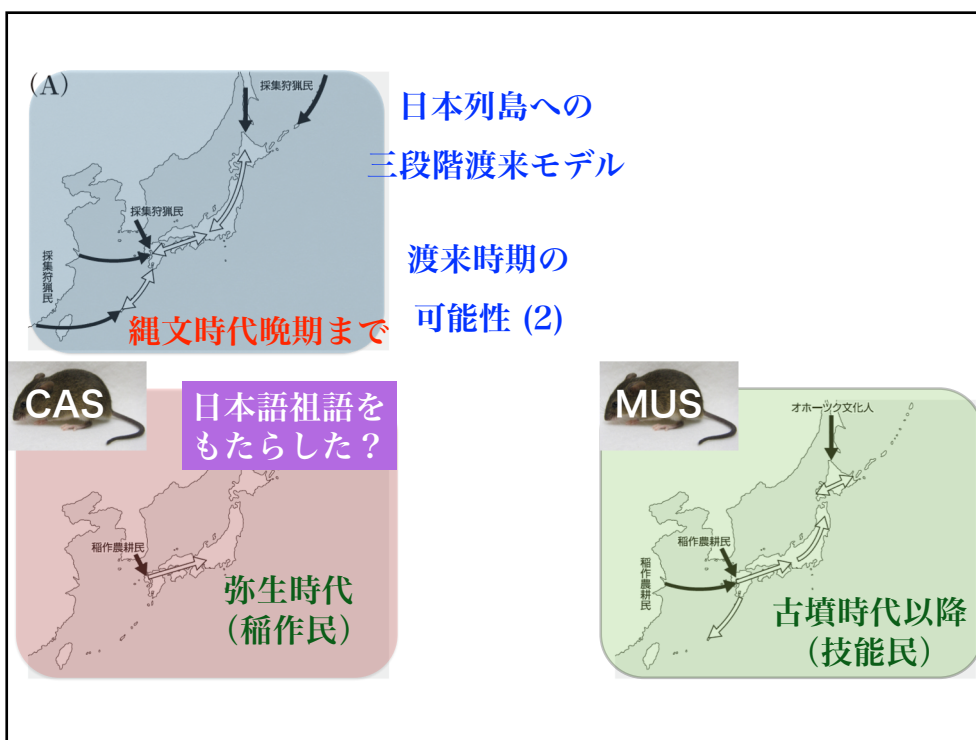
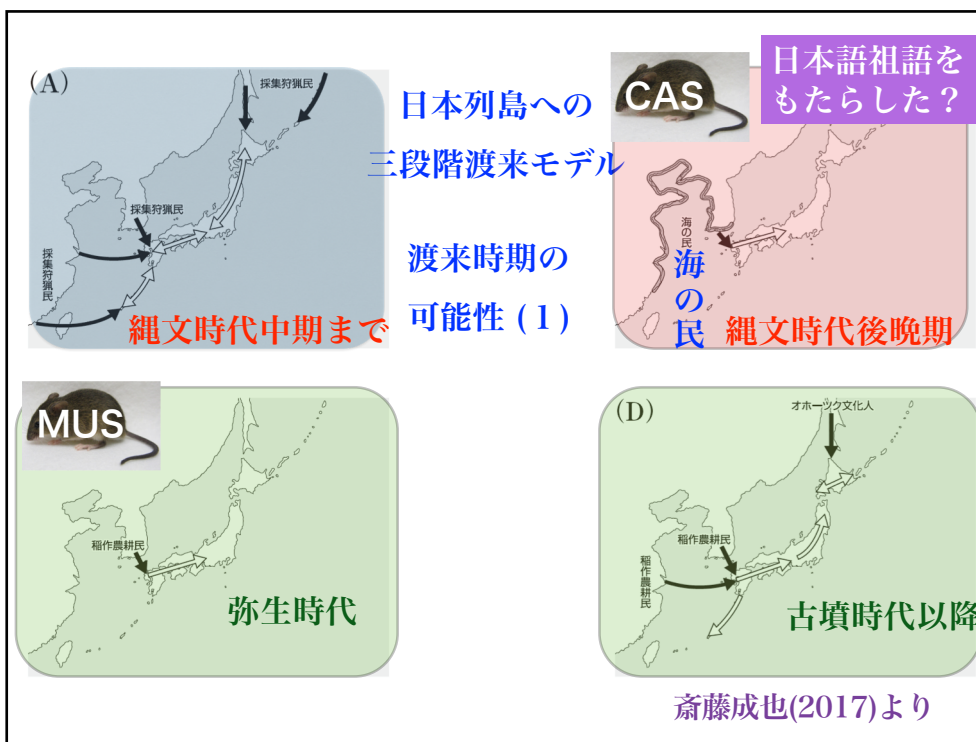
- (1) 「**うちなる二重構造**」をもとにした三段階渡來說を検証する
- (2) ヤポネシアへの渡来人の源郷を確定する
- (3) 琉球語・日本語の起源と発展の諸説を検証する

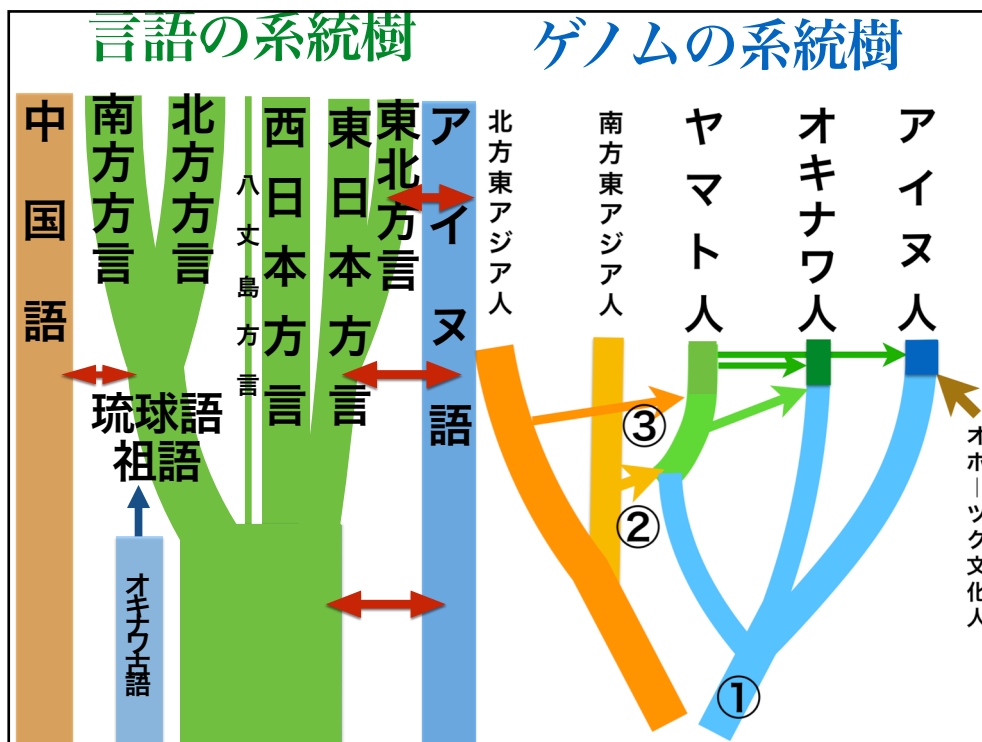
➡ **新分野「ゲノム歴史学」を確立する**











若手研究者育成班

担当：長田直樹（B03班研究代表者; 43才）

- ◎ 若手研究者育成セミナーの開催
 - ・将来を担う若手研究者間の異分野交流を目的としたブリッジ・ミーティングなどのセミナーを開催
 - ・ゲノムデータ解析ソフトウェアの講習会を開催
- ◎ 国際活動支援グループと共同で若手研究者を海外に派遣
 - ・各計画研究の若手研究分担者・若手連携研究者を派遣
 - ・各公募研究の若手研究代表者・若手研究分担者を派遣

<計画研究の若手研究者(45才未満)一覧>

A01：松波(35才)、Jinam (36才)、鎌谷(40才)

A02：神澤(32才)、佐藤(35才)

B01：箱崎(35才)、大森(36才)

B03：藤本 (39才)、河合(40才)、五條堀(40才)、長田(43才)

国際活動支援班

担当：篠田謙一（A02班研究代表者）

◎ 海外6研究機関との連携を強化

ドイツ、Max-Plank Institute for Science of Human History, Jena (A02班, B02班)

スイス、University of Bern, Bern (A01班, B02班)

韓国、高麗大学校文化遺産融合学部、ソウル (B01班)

米国、University of Texas at Houston, Human Genetics Center (A01班, B03班)

ロシア、Science Academy, Institute of Biology and Soil Science (A03班)

デンマーク、Natural History Museum, Centre for GeoGenetics (A02班)

◎ 若手研究者育成グループと共同で若手研究者を海外に派遣

・各計画研究の若手研究分担者・若手連携研究者を上記研究機関を中心に派遣

・各公募研究の若手研究代表者・若手研究分担者を上記研究機関を中心に派遣

◎ ゲノム学、考古学、言語学などさまざまな分野の国際会議における発表を支援

文部科学省科学研究費補助金 新学術領域(複合領域)採択
大学共同利用機関機構間連携研究 採択

ヤポネシア人の総合的研究

Integrated Study of Yaponesian

ホーム

研究内容

メンバー紹介

新学術領域研究A01班

新学術領域研究A02班

新学術領域研究A03班

新学術領域研究B01班

新学術領域研究B02班

新学術領域研究B03班

活動報告

連絡先

リンク

研究概要

ヤポネシア(日本列島)には約4万年前に最初のヒトが渡来し、その後も何度か渡来の波がありました。この枠組みの中で、ヤポネシア人(日本列島人)はどのような集団にその起源をもつのか、ヤポネシアにおける成立・発展の過程はどうであったのかを、多地域から選別した現代人数百個体と旧石器時代～歴史時代の古代人100名のゲノム配列を決定し比較解析することで、ヤポネシア人ゲノム史の解明をめざします。ヒトとともにヤポネシアに移ってきた動植物についても、それらのゲノム配列の比較から歴史を解明します。過去の人口増減の詳細な歴史を、ゲノム配列から推定する既存の方法や新規に開発する方法を用いて、再構築します。ヤポネシア人の歴史を多方向から検討するために、これらゲノム研究と、年代測定を取り入れた考古学研究や、日本語・琉球語の方言解析を含む言語学の研究グループとの共同研究を行います。これらから、文理融合のあらたな研究領域を確立します。

<http://yaponesian.org/>

トピックス

一覧を見る

2018年10月21日

三島市民文化会館で開催予定の第72回日本人類学会の公開シンポジウム「日本列島人1000年」において、本新学術領域の計画研究A02班研究代表者篠田謙一、計画研究B01班研究代表者藤尾慎一郎、B02班研究分担者木部暢子が講演します。

2018年10月19日

三島市の国立遺伝学研究所で開催予定の第72回日本人類学会において、一般シンポジウム12<新学術領域「ヤポネシアゲノム」始動！>を開催します。

ヤポネシアとは

ラテン語で「ヤポ」は日本を、「ネシ



雑誌 *Yaponesian*

- 一般の方むけのヤポネシアゲノム研究の広報誌
- 年4回、はる、なつ、あき、ふゆ号を発行
- 最初は0巻0号として今年10月に刊行予定
- 希望者に無料で配布；pdf版のダウンロードも可
- 一部の内容は英語版を作成し世界に発信！